

ICTに関連した健康行動を規定する要因分析

超高齢社会を迎えたわが国では、現在、生産年齢人口の減少、社会保障費の増大などの課題に直面しており、国民の健康維持・増進に向けた取り組みによる健康寿命の延伸実現を通じた課題解決が求められている。そうした社会情勢を受け、千葉市は昨年、スマートプラチナ社会構想の実現に向けた総務省の「ICT 健康モデル（予防）の確立に向けた地方型地域活性化モデル等に関する実証」事業に参加した。この事業で行われたウェブ調査のデータを分析することで、保健行動誘因としての健康ポイント制、ICT（スマートフォンおよびそのアプリ）を用いた介入方法を考える。

健診受診行動に代表される保健行動は、保健行動モデルによって説明されてきた。しかし、従来の保健健康モデルは、重大性や有効性の認識と言った意識下の要因のみが保健行動に影響を与えると考えてきたが、それだけでは不合理な行動、無意識下の行動の説明をするには不十分である。そこで、従来の保健行動モデルに行動経済学的特性を加えることで、保健行動の変容の新たなモデルを考え、そのモデルに基づいた介入を提案する。

本抄読会においては、従来の保健健康モデルの紹介、行動経済学の説明、千葉市調査の概況、及び今後の展望について説明する。

主要文献

- (1) Becker MH, Drachman RH, Kirscht JP. A new approach to explaining sick-role behavior in low-income populations. *Am J Public Health* 1974 Mar;64(3):205-216.
- (2) 榎本 妙, 小笹 晃, 福井 和, 森 雅, 福本 恵, 堀井 節, et al. 禁煙の関心度を規定する要因 : 行動科学的検討. *日本公衆衛生雑誌 = JAPANESE JOURNAL OF PUBLIC HEALTH* 2005 05/15;52(5):375-386.